## 固体電解質 LiZr<sub>2</sub>(PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>中での Li 拡散経路の第一原理計算による解析

First Principles Analysis of Li Diffusion in LiZr<sub>2</sub>(PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub> Solid State Electrolytes 物材機構<sup>1</sup>、学習院大理<sup>2</sup> <sup>O</sup>池田稔<sup>1</sup>,大野隆央<sup>1</sup>、三石和貴<sup>1</sup>、稲熊宜之<sup>2</sup>、舩山耕生<sup>2</sup>、森大輔<sup>2</sup> NIMS<sup>1</sup>, Gakushuin Univ.<sup>2</sup> <sup>O</sup>Minoru Ikeda<sup>1</sup>, Takahisa Ohno<sup>1</sup>, Kazutaka Mitsuishi<sup>1</sup>, Yoshiyuki Inaguma<sup>2</sup>, Koki Funayama<sup>2</sup>, Daisuke Mori<sup>2</sup>

E-mail: IKEDA.Minoru@nims.go.jp

【始めに】全固体型のLi二次電池の研究を進めており、第一原理計算によりその伝導経路などをGarnet型、Perovskite型について報告してきた。今回、NASICON型の構造を有するLiZr<sub>2</sub>(PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>に着目した。LZPOは、低温相の $\alpha$ 'phaseと高温相の $\alpha$  phaseの2種類の結晶構造が存在し[1]、300Kで相転移する[2]。 $\alpha$ 'phaseは、三斜晶で $\overline{C}$ の対称性を有し、 $\alpha$  phaseは菱面体晶であり、 $R\overline{3}c$ の対称性を有している。高温相のLi (オン伝導は低温に比べた高いことが報告されていたが、その伝導経路は明確ではなかった。そこで、高温相である $\alpha$ -LiZr<sub>2</sub>(PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>の(オン伝導経路とその活性化エネルギーについて、第一原理計算により詳細に解析したので報告する。

【計算方法】第一原理計算としては、PAW 法[3]を採用し、交換相関エネルキャー項には GGA(PBE 型)の補正を考慮している。活性化エネルキャーの評価には、Nudged Elastic Band 法を用いた[4]。6 LZPO を含む、Hexagonal cell を用いた 108 原子を含む super cell で全ての計算を行った。Brillouin zone 積分は 2x2x1 の 3K 点を用いている。カットオフ・エネルキャーは 550eV である。

【結果と考察】  $\alpha$ -LiZr<sub>2</sub>(PO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>の結晶構造を図1に示す。空間群は167番目であり、Liの配置は、 36f、6b、18eと複数位置が可能である。図2には、初期配置としてLiを6bサイトにおいて、温度1600K で300ps間の有限温度でのシミュレーションの軌跡を示す。Liは、18eサイトにはほとんど存在しないことが 分かる。また、大半の時間は6bサイトを中心とした36fサイト位置の存在しており、36fサイト間をホッピング して伝導していることが分かる。36fサイト位置はこのユニットセル内には、6か所存在しており、各サイト位 置でのLi イオンの個数の時間分布を調べると、0、1、2となっており、36fサイトには最大2個のLi イ オンしか存在出来ないことが判明した。図3は、一つの36fサイトにあるLi イオンが最近接の36fサイトに移 動して、一つのサイトはゼロで隣のサイトが2個のLi イオンが存在するときの障壁エネルギーを NEB 計算で見 積もったものであり、その活性化エネルギーは0.64 eV になる。また、Li<sub>int.+</sub>と V<sub>Li</sub>の defect pair の生成 エネルギーは、0.24 eV になる。



図1初期構造 図21600K で300ps 間の軌跡 図3 NEB 計算結果 【謝辞】本研究は、JST 戦略的創造研究推進事業 ALCA の支援のもとに行われました。 【参考文献】[1] M. Catti, et al., Solid State Ionics, 123, 173(1999), 136-137, 489(2000). [2] 稲熊他、第42回固体イオニクス討論会、2A-11、名古屋(2016)。

[3] G. Kresse and J. Hafner, Phys. Rev. B47, 558(1993).

[4] G. Henkelman and H.Jonsson, J. Chem. Phys. 113, 9901(2000), 113, 9978(2000).